

練馬区立総合体育館改築基本計画策定懇談会（第2回）議事要旨

- 日 時 平成23年10月14日午後6時30分～午後8時30分
- 場 所 練馬区役所 本庁舎19階 1902会議室
- 出席者（委員）16名
（事務局）生涯学習部長、スポーツ振興課長
施設計画担当係長、同係職員1名
総合体育館副館長
（委託事業者）三菱総合研究所（以降、MRI）4名
松田平田設計（以降、MHS）2名
- 欠席者 なし
- 傍聴者 2名
- 案 件 1 開 会
2 議 事
 - （1） 計画策定に向けた主な論点について（資料2）
 - （2） 新総合体育館の計画にあたっての基礎的事項について
（資料3-1から3-3）
 - （3） 新総合体育館の想定されるパターン（機能・規模）について
（資料4）
- 3 その他
- 4 閉 会
- 配布資料 資料1 練馬区立総合体育館改築基本計画策定懇談会（第1回）議事要旨
資料2 計画策定に向けた主な論点について
資料3-1 各諸室の稼働率について
資料3-2 利用形態・利用ニーズからみた施設要件について
資料3-3 23区における総合体育館の概要について
資料4 新総合体育館の想定されるパターン（機能・規模）について

案件1. 開会

- 座 長:これより第2回練馬区立総合体育館改築基本計画策定懇談会を開催させて頂く。
前回（第1回）は、総合体育館の現状と課題、新総合体育館のあり方について議論をした。今回は論点を絞りつつ、より具体的な議論をしていきたい。

案件2. 議事

(1) 計画策定に向けた主な論点について

■座長：それでは、資料2について事務局より説明を頂く。

資料2 計画策定に向けた主な論点について

(説明者：事務局)

■座長：施設機能、周辺環境、事業手法と大きく3つの論点があるが、本日は施設機能について論点を絞って議論し、周辺環境、事業手法については次回以降に議論したいと考えるのがいかがか。

(全会一致)

■座長：それでは、本日はアリーナ観客席、サブアリーナ、温水プールを中心とした施設機能について議論をしていく。それでは、事務局より資料の説明を頂く。

(2) 新総合体育館の計画にあたっての基礎的事項について

資料3-1 各諸室の稼働率について

資料3-2 利用形態・利用ニーズからみた施設要件について

資料3-3 23区における総合体育館の概要について

(説明者：事務局)

■座長：ただいまの説明についてご質問、ご意見はいかがか。

■委員：稼働率について、季節ごとの稼働率データはないのか。

■事務局：今回の集計では通年での稼働率データを使っている。実態として、季節による稼働率の違いはそれほどないということである。

■委員：墨田区総合体育館と同規模の施設を、練馬区総合体育館の敷地内に建てることは可能なのか。

■事務局：簡単な図面については次回に示す予定であるが、昨年度の基礎調査で、地下を活用することで可能であるという結果が出ている。

■委員：剣道場はヨガや空手等の他種目でも利用されるということだが、柔道場での他種目の利用状況はどうか。

■事務局：ほとんどが柔道での利用であるが、体操等に使用されることもある。

■事務局：剣道場の他種目での利用について注釈を入れた理由は、他種目利用の頻度が高いからである。他の諸室においても多少の他種目での利用はあるだろうが、剣道場ほどの高い頻度でない。

■委員：それでは、射撃場、ローラースケート場、弓道場は、他種目に使える作りになっ

ているのか。

- 事務局：現在、弓道場はアーチェリー、ローラースケート場はローラースケートフィギュアやローラーホッケーに使われる。射撃場は射撃のみである。
- 副座長：ローラースケート場は、リンク中央部分も滑ることができるのか。
- 事務局：中央部分も滑ることができる。
- 副座長：中央部分を、例えばフットサルなど他用途に使えるものにすることはできるのか。
- 事務局：ローラースケートのリンクとしての要件を満たしたうえで可能であれば、対応できるのではないか。
- 委員：総合体育館の卓球場は天井が低いため、正規の利用はできない。しかし、区その他施設と違い、卓球台が常設されている点では非常に便利ではある。
- 座長：新しい体育館では、天井を高くすることで利用者にとってより良い卓球場になる可能性があるだろう。資料3-1の稼働率は団体利用でのデータであるが、個人利用についての実態はいかがか。
- 事務局：ローラースケート場はほとんどが個人利用である。他の諸室についても、団体利用がない時には個人で利用されている方がいる。
- 座長：個人利用の実態があるならば、団体利用での稼働率だけで各諸室の必要性を判断するべきでない。個人利用も考慮する必要がある。
- 委員：ローラースケート場は、屋根がないので、雨や寒さで使いにくい面はあるが、休日の子どもの利用が非常に多い。新総合体育館でも残して頂きたい。
- 委員：リトミックやダンス、あるいはコンサートなど音楽を利用できる施設であれば利用用途や利用者層も広がるのではないか。
- 事務局：周辺が住宅地である立地を考えると、防音の観点から難しいのが現状である。新総合体育館では音響機能についても議論をしていければと思う。
- 座長：リトミックなど屋内諸室で行うものであれば可能だと思うが、コンサートなどに使うにあたっては、音響、防音ともに考慮する必要があり、体育館との親和性の観点から難しいのではないか。
- 委員：以前、後楽園に床張りのローラースケート場があった。床張りであれば多用途に使えるのではないか。
- 事務局：頑丈な構造体で建築すれば可能だと思うが、その場合建設コストも高くなることを踏まえる必要がある。
- 委員：現在の練馬区総合体育館では、バレーボールコートが2面しか取れない。他の

自治体の体育館では3面を取れる施設も多く、また利用者からの要望も高い。サブアリーナの設置についても利用者の要望は高い。

- 委員：近年建設された体育館ではサブアリーナを設置しているところが多い。また、50mプールは設置していない。このようなトレンドも踏まえて検討すべきではないか。
- 委員：バドミントンの全国大会で愛知県や富山県の体育館を訪れたが、どの施設も広いアリーナとサブアリーナを設置している。全国規模の大会を開催するにはその2つは必要なものである。
- 委員：大規模大会のサブ会場、あるいはウォーミングアップの場所としてもサブアリーナは必要である。ローラースケート場の稼働率については、休日の子どもの利用が多いので平日の稼働率の低さは止むを得ないだろう。その点を補う工夫として、例えばテニスの壁打ちなど他目的に使える施設にすることが有効ではないか。
- 座長：現状や要望について共有が出来てきた。続いて、新総合体育館の機能と規模について想定されるパターンを事務局から説明を頂く。

(3) 新総合体育館の想定されるパターン（機能・規模）について

資料4 新総合体育館の想定されるパターン（機能・規模）について

（説明者：事務局）

- 座長：ただいまの説明についてご質問、ご意見はいかがか。
- 委員：相撲場の稼働率は低い。相撲場を残す理由としては、どのような点が挙げられるのか。
- 委員：相撲場の維持にはコストがかからないのではないか。その点を踏まえ、少ないながらも利用者があるので残してもいいのではないか。
- 事務局：温水プールは光熱水費でコストがかかるが、相撲場はそれほどかからない。土俵は多少小さいが、土俵稽古ができる貴重な施設である。この相撲場で稽古した子どもがわんぱく相撲で活躍したり、全国大会に出場したり、力士を輩出したこともあるということを考えると残してよいのではないか。
- 委員：総合体育館の相撲場は、個人利用できるのか。
- 事務局：条例で団体利用のみとなっている。
- 委員：参加者はそれほど多くはないが区民大会も総合体育館の相撲場で開催している。事務局のお話にもあったように、そこから全国大会で活躍する選手も出ているので残して頂きたい。

- 委員：正規の大会も開ける規模の土俵にすれば、稼働率の低さも改善されるのではないか。
- 委員：地域の方々に様々なスポーツを体験してもらいたいので、現在ある各施設は残していただきたい。また、他種目に利用できる作りになっていただければ、更に様々なスポーツを実施できるのではないか。また、プールについては、年齢問わず競技志向の区民が増えている。競技志向の方が50mプールを利用するためにわざわざ遠くに行かざるを得ない現状を考えると、50mプールがあれば良い。更に、シンクロや水球なども行える水深の深いプールであれば利用ニーズはあると思う。
- 委員：トレーニング室とフィットネススタジオの違いは何か。
- 事務局：トレーニング室は器具を使うトレーニングを行うところで、フィットネススタジオはエアロビクスなどを行うところである。
- 委員：そうすると、フィットネススタジオではインストラクターが必要であるのではないか。
- 事務局：運営方法の話になるが、講師がいる教室を施設管理者が開催していくこともあるだろう。
- 委員：現在のトレーニング室の器具は本格的なものが導入されており評価が高い。現在の器具は残すのか。
- 事務局：現在の器具は残したうえで、ランニングマシンなど新しい器具の導入も考えられるだろう。
- 座長：運営面での話になるが、トレーニング室やプールで収益を上げていくのが一般的なビジネスモデルである。教室の開催や器具の導入などは運営者が工夫して実施していくことになるだろう。どの程度のレベルの競技会を必要とするかについての意見はいかがか。
- 委員：大規模なプロの試合などが多いと、区民が利用できなくなる日が増えてしまう。スポーツを「する」という点を考えると、大規模な大会がそれほど多くない現状程度で良いのではないか。
- 委員：観客席については、固定1,000席、可動500席の計1,500席程度がいいのではないか。バレーボールの試合の時など、現在の約400席の固定席では入りきらない状況であるので1,000席あれば良い。しかし、固定1,500席は多過ぎると感じる。
- 委員：立地条件等を考慮すると、トップレベルの大会であっても動員の面では厳しい数字になるのではないかと思うので、計1,500席程度が最大数ではないか。また、そのような大会は休日に開催されるので、区民の利用機会を圧迫する点も考えるべきである。

サブアリーナについては、怪我予防のウォーミングアップの観点からも必要である。

- 座長：ウォーミングアップや、あるいはメインアリーナとは別な種目を実施できる点からもサブアリーナは必要だというのが多数意見であるようだ。
- 委員：現在、アリーナ内を分割して複数種目をやっているが、音や冷房についてトラブルになることもある。サブアリーナができればその問題も解決する。
- 委員：各委員のお話を伺うと、資料4に提示されているパターンBのイメージではないか。固定1,000席、可動500席の計1,500席が個人的にも良いと思う。
- 副座長：固定席数が1,000席であるということならばパターンCが該当である。
- 座長：仮設の席というのも可能か。
- 事務局：可能である。墨田区総合体育館は仮設席もある。
- 副座長：墨田区総合体育館の観客席の内訳はどのようなものか。
- 事務局：固定が1,500席、可動が500席であり、それにアリーナなどに仮設席を500席設置して、全部で2500席程度が確保可能である。
- 副座長：各委員のご意見は、区の大会などを想定した観客席数であるようだが、プロスポーツの開催についてどのように考えるか。それによってパターンBか、Cか、C+になるかが変わってくる。
- 委員：固定1,000席と可動500席を支持する理由は、時折開催されるプロ等の大規模大会のために固定1,500席を設置する必要はないと考えるからである。区レベルの大会では固定1,000席あれば良く、大規模大会時には可動席で補完すると良いのではないか。
- 副座長：墨田区総合体育館はプロスポーツの試合も開催しているが、プロスポーツの試合が休日のアリーナ等を占有してしまうことに対する区民利用者の不満は出ていないのか。
- 事務局：その点については、今後情報収集を行う。
- 委員：墨田区総合体育館は、駅前に立地しておりアクセスも良い。アクセスが悪い練馬区総合体育館の状況も踏まえ、プロスポーツ志向と区民利用者志向のどちらを志向するかを考えないといけないのではないか。
- 委員：プロスポーツを開催すると駐車場スペースの確保も考えなければならない。現在、区や都レベルの大会の開催時には相乗りなどの協力を頂いても余裕がない状況である。敷地を考えると難しいのではないか。
- 委員：プロスポーツであると大型車の駐車も考慮しなければならない。より一層難しいのではないか。
- 委員：「練馬区総合体育館」であるので、まずは区民利用を志向し、それに加え現状か

らより良くできる部分について可能な限り対応するという形が妥当ではないか。

- 委員：同感である。出来る範囲でパターンBに近づけていくことが現実的ではないか。
- 委員：現在の利用者が不便を感じる新総合体育館にはして欲しくない。むしろ「使いやすくなった」と感じるものにして欲しい。
- 委員：プロスポーツを開催すると、練馬区とは関係のない方々も多く来る。「みる」スポーツの対象は必ずしもプロでなくとも、家族や友人など身近な方の試合を見ることも「みる」スポーツなのではないか。
- 委員：新体操の大会開催時に、新体操日本代表チームがデモンストレーションを行ったりしている。興行でなくても、プロスポーツに触れる機会を作ることは出来るので、そのような機会を増やすことが有効ではないか。
- 座長：リーグ戦の試合を呼ぶのではなく、そのような形でプロスポーツを誘致することは十分可能であるだろう。
- 委員：練馬区の各スポーツ連盟でも、著名な選手を招いてのイベントを行っているところがある。
- 委員：会議室についてだが、現在は45名定員の会議室が1箇所だけである。少し増やして欲しい。さらに会議だけでなく、選手控え室など多目的に使えると良いのではないか。
- 座長：それに加え、研修会を行う場所についても考慮すべきである。
- 委員：各スポーツ連盟からは100名規模の会議室が欲しいという要望がある。用途としては、研修会や大会後のミーティングなどの要望が多い。
- 座長：現在、総合型地域スポーツクラブの会員が集まれるスペースもないので、事務室とは別にそのスペースもあると良いのではないか。飲食スペースがそのスペースに該当するかもしれないが、体育施設のレストランやカフェは失敗するケースが多い。
- 委員：飲食の提供機能はなくても良いが、飲食スペースは必要ではないか。
- 座長：プールについてはいかがか。
- 委員：水深の深い大きなプールは一般利用者の使い勝手が悪いと資料4に記載がある。これまでプールがなかった練馬区総合体育館に新しくプールができるという点が重要であるので、規模が大きい必要性はないのではないか。
- 委員：一般利用者を対象とした25mプールは、区内の他の体育館にもあるので、「総合体育館」であることもふまえると、シンクロや水球も行える水深の深いプール、競技志向の利用者の要望に応えられる規模のプールも必要であると思う。一般区民利用の場合は、可動床を設置すれば利用可能である。

- 座 長：可動床の設置により対応可能であるが、その場合にはかなり高くなるコストについても考慮しなければならない。
- 委 員：50mで水深の深いプールであれば、各種大会の需要は高くなる。その場合、区民利用者の利用機会を圧迫する可能性についても考える必要がある。
- 委 員：大会時においても、部分的に一般利用者に利用してもらうことは可能であるのではないか。
- 委 員：プールについて、区民を対象とするならば25mが良いのではないか。また、50mであるとコスト、面積などで問題点が多いのではないか。
- 委 員：諸室名について、「剣道場」ではなく「武道場」とするなどして多目的に利用できるというイメージが持てる名称を付けてはいかかがか。また、会議室については板張りであれば、体操等にも利用できる多目的なものになるのではないか。
- 委 員：資料4で記載のあるレンタルロッカーについては、是非導入して欲しい。
- 委 員：射撃場については確かに利用者もそれほど多くはないが、全国大会で活躍する選手もいる。その方々からもう少し標的までの距離の長い射撃場が欲しいという要望がある。プールや他諸室についても様々な要望があるが、すべての要望に応えるのは無理なので、全体のバランスを考えたうえで新しい総合体育館を作って欲しい。
- 委 員：区民が様々なスポーツを体験できる「区民のための総合体育館」という考えで計画を策定して欲しい。
- 座 長：今回の懇談会では活発な意見が出た。区民が行うスポーツを前提とした区総合体育館であり、その中に「みる」機能をいかに落とし込んでいくかというのが本日の議論で得られた方向性であると感じた。

案件3. その他

- 事務局：前回（第1回）、各委員の同意を得られたので、それぞれの発言をチェックしていただいたうえで、資料1 練馬区立総合体育館改築基本計画策定懇談会（第1回）議事要旨を公開したい。
- 事務局：次回は、11月17日（木）午後6時30分より開催する。

案件4. 閉会

以上